

杉山 博(禿山) 先生著作目録

池 永 二 郎 編

A ○著書(△共著・共編をふくむ)の部

- 1△『寄生地主制の生成と展開』(岩波書店) 一九五二年 三月
- 2△『地方史研究協議会編』『地方史研究必携』(岩波書店) 一九五二年 七月
- 3△『山村の構造』(御茶の水書房) 一九五二年一〇月
- 4△『風土記日本』4「関東中部編」(平凡社) 一九五七年 八月
- 5○『庄園解体過程の研究』(東京大学出版会) 一九五九年 九月
- 6△『千代田区史』(上)(千代田区役所) 一九六〇年 三月
- 7△『水戸市史』(上)(水戸市役所) 一九六三年一〇月
- 8△『相模原市史』(一)(相模原市役所) 一九六四年一月
- 9△『相模原市史』(五)(相模原市役所) 一九六五年一月
- 10○『戦国大名』(「日本の歴史」11)(中央公論社) 一九六五年一二月
- 11△『府中市史』(上)(府中市役所) 一九六八年一月
- 12△『地方史研究の現状』(1 関東篇 東京都) (吉川弘文館) 一九六九年 九月
- 13△『東京都の歴史』(「県史シリーズ」13)(山川出版社) 一九六九年一〇月
- 14△『藤沢市史』(一)(藤沢市役所) 一九七〇年一〇月
- 15△『藤沢市史』(四)(藤沢市役所) 一九七二年 三月
- 16△『東京百年史』(一)(東京都) 一九七三年 二月

- 17 △ 『豊嶋氏の研究』(名著出版) 一九七四年一二月
- 18 △ 『佐野市史』(資料編 1)(佐野市役所) 一九七五年一月
- 19 △ 『大石氏の研究』(名著出版) 一九七五年八月
- 20 △ 『郷土資料の活用』(「地方史マニユアル」4)(柏書房) 一九七五年九月
- 21 ○ 『北条早雲』(「小田原文庫」4)(名著出版) 一九七六年十一月
- 22 △ 『練馬区の歴史』(「東京ふるさと文庫」1)(名著出版) 一九七七年五月
- 23 △ 『佐野市史』(通史編 上巻)(佐野市役所) 一九七八年三月
- 24 △ 『戦国の兵士と農民』(還暦記念)(角川書店) 一九七八年十一月
- 25 △ 『南蛮船の渡来』(「探訪大航海時代の日本」1)(小学館) 一九七八年七月
- 26 △ 『布教と貿易』(「探訪大航海時代の日本」2)(小学館) 一九七八年九月
- 27 △ 『キリシタンの悲劇』(「探訪大航海時代の日本」3)(小学館) 一九七八年一〇月
- 28 △ 『角川日本地名辞典』(角川書店) 一九七八年一〇月
- 29 △ 『黄金の国を求めて』(「探訪大航海時代の日本」4)(小学館) 一九七八年十一月
- 30 △ 『新編 埼玉県史』(資料編 6)(埼玉県) 一九八〇年三月
- 31 ○ 『戦国大名 後北条氏の研究』(名著出版) 一九八二年一〇月
- 32 △ 『北条早雲のすべて』(新人物往来社) 一九八四年六月
- 33 △ 『新編 埼玉県史』(資料編 8)(埼玉県) 一九八六年三月
- 34 △ 『新編 埼玉県史』(通史編 2)(埼玉県) 一九八八年三月
- 35 △ 永原慶二・所理喜夫編 『戦国期職人の系譜』(古稀記念)(角川書店) 一九八八年九月

B ○史料集など(△共著・共編をふくむ)の部

- 1 △『備中国新見庄史料』(瀬戸内海総合研究会) 一九五二年一二月
- 2 ○『豊島宮城文書』(練馬郷土史研究会) 一九五六年三月
- 3 △『三宝寺史料集』(練馬郷土史研究会) 一九五六年一月
- 4 △『伊東家文書集』(練馬郷土史研究会) 一九五七年六月
- 5 ○『江戸氏関係文書集』(千代田区役所) 一九五七年一〇月
- 6 ○『豊島明重関係史料』(『豊島明重』所収) 一九五八年五月
- 7 ○『上練馬村明細帳』(練馬郷土史研究会) 一九六〇年二月
- 8 △『伊阿弥家文書集』(練馬郷土史研究会) 一九六〇年一二月
- 9 △『吉田神社文書』(水戸市史編纂委員会) 一九六二年七月
- 10 △『六地藏寺過去帳』(水戸市史編纂委員会) 一九六二年九月
- 11 △『吉田薬王院文書』(水戸市史編纂委員会) 一九六二年九月
- 12 ○『箱館行乗』(熊川家史料) 一九六四年八月
- 13 △『山城国乙訓郡築山村史料目録』(久我文書研究会) 一九六六年二月
- 14 △『多聞院日記索引』(角川書店) 一九六七年一月
- 15 ○『小田原衆所領役帳』(近藤出版社) 一九六九年八月
- 16 △『戦国文書聚影』(一)(後北条氏編)(柏書房) 一九七三年五月
- 17 ○『座中天文物語』(『日本庶民文化資料集成』二)(三一書房) 一九七四年一二月

18 ○『厚木市史史料集』(六 中世文書編)(厚木市役所)

一九七五年 一月

19 ○『小田原編年録』(全五冊)(名著出版)

一九七五年 二月

20 △『新編 武州古文書』(上)(角川書店)

一九七五年 三月

21 △『新編 武州古文書』(下)(角川書店)

一九七八年 三月

C ○論文(△書評・紹介・短文等をふくむ)の部

〔一〕 二十歳代のもの(一九三八年〔昭和一三〕より一九四七年〔昭和二二〕まで)

1 ○中世末期に於ける夫役に就いて―大和大乗院領を中心として―

一九四一年 一二月

(卒業論文 23歳ノ暮ニ提出)(主査高柳光寿先生・副査渡辺世祐先生)

2 ○天役考(上)(『HISTORIA』創刊号)

一九四七年 一〇月

〔二〕 三十歳代のもの(一九四八年〔昭和二三〕より一九五七年〔昭和三二〕まで)

3 ○〔共同執筆〕中世土豪の土地所有形態に関する一資料―「嘉曆二年近衛家領革島南庄図」について―

一九四九年 三月

(『歴史学研究』一三八号)

4 ○山城国葛野・乙訓両郡條里考(『史林』三二卷二号)(のち「乙訓郡の条里について」と改題、著書5

一九四九年 一〇月

に収録)

5 △紹介―笠原一男著『日本における農民戦争』(『歴史学研究』一四二号)

一九四九年 一二月

6 ○日本中世史研究の歩み(『歴史評論』二〇号)

一九五〇年 二月

7 ○ちがいさいふ(違割符)について(『歴史学月報』三号)

一九五〇年 一二月

8 ○備中の土一揆(『歴史評論』二七号)(のち、著書5に収録)

一九五一年 一月

- 9 △守護領国制の展開（『社会経済史学』一七卷二号） 一九五一年 五月
- 10 ○荘園における商業（『日本歴史講座 中世篇（一）』河出書房）（のち、「新見荘における商業」と改題して著書5に収録） 一九五一年二月
- 11 ○中世における民族の文化について（『歴史学月報』一九号） 一九五二年 四月
- 12 ○庄園と宮座との関联について—山城国上久我庄菱妻社を例證として—（『神道宗教』四号）（のち、「久我庄の宮座」と改題して著書5に収録） 一九五二年 八月
- 13 ○山城国乙訓郡久我庄の考察（『国史学』五八号）（のち、「久我庄の一考察」と改題して、著書5に収録） 一九五二年 九月
- 14 △書評—『偽らぬ日本史』（『歴史評論』四〇号） 一九五二年一月
- 15 ○一九五一年歴史学年報 日本封建前期（『歴史学の成果と課題』Ⅲ 岩波書店）（のち、「山城国一揆の背景」と改題、著書5に収録） 一九五二年二月
- 16 ○室町小歌について（『民族の文化について』岩波書店）（のち、「室町小歌の世界」と改題して、著書5に収録） 一九五三年 二月
- 17 ○たまがき（新見庄庄官の娘）のふみ（『世界歴史事典』18巻月報 平凡社）（のち、著書5に収録） 一九五三年二月
- 18 ○単元『水害と市政』の検討—歴史学の立場から「こんなときどうしたっぺな」—（『カリキュラム』一九五三年一二月号）（のち、上田薫編『社会科教育史資料』4 東京法令出版 一九七七、に収録） 一九五三年二月
- 19 ○「武士のおこり」解説（『歴史紙芝居シリーズ』5） 一九五四年一月
- 20 ○日本史研究入門 封建前期（Ⅲ） 研究団体（紹介）（補論付録三）（『日本史研究入門』東京大学出版会） 一九五四年一月
- 21 ○近代地方史研究によせて（『TUP通信』一九号） 一九五五年 四月

- 22 △社会経済史学会大会に参加して(『歴史学研究』一八五号) 一九五五年 七月
- 23 ○村の娯楽について(『日本文化史講座』第六卷月報)(新評論社) 一九五五年一〇月
- 24 ○地方史誌の編纂と村の研究(『日本古書通信』三一七号) 一九五五年一二月
- 25 ○備中国新見荘の伝領と支配(『国史学』六六号)(のち、著書5に収録) 一九五六年 一月
- 26 ○地名とその研究について(『講座日本語』月報5)(大月書店) 一九五六年 二月
- 27 ○中世の中部(『日本文化風土記』4)(河出書房) 一九五六年 二月
- 28 ○歴史調査について(講座「歴史」IV『国民の歴史意識変革運動』)(大月書店) 一九五六年 四月
- 29 ○室町幕府(「日本歴史講座」第三卷『中世—近世』)(東京大学出版会) 一九五六年 九月
- 30 ○室町期庄園の内部構造(西岡虎之助編『日本歴史地図』)(全国教育図書) 一九五六年一〇月
- 31 ○『日本の民家』武蔵・両毛篇を読んで(『日本の民家』月報5)(美術出版社) 一九五七年 五月
- 32 ○地方史研究界の現状(『歴史評論』八五号) 一九五七年 六月
- 33 ○武蔵国豊島郡赤塚庄について(『地方史研究』二七号) 一九五七年 六月
- 〔三〕 四十歳代のもの(一九五八年〔昭和三三〕より一九六七年〔昭和四二〕まで)
- 34 △紹介―『練馬区史』『世田谷区史料』(『日本歴史』一一七号) 一九五八年 三月
- 35 △書評―日本史研究会史料研究会監修、野田只夫氏編 丹波国山国荘史料(『日本読書新聞』九四四号) 一九五八年 三月
- 36 △書評―『鎌倉市史』(資料編Ⅰ)Ⅲ―関東中世史研究の宝庫―(『日本読書新聞』九五一号) 一九五八年 五月
- 37 △紹介―近世村落研究会編『仙台藩農政の研究』(『日本歴史』一二二号) 一九五八年 八月
- 38 △書評―桜井徳太郎著『日本民間信仰論―実証的研究の成果―』(『日本読書新聞』九六二号) 一九五八年 八月
- 39 ○信貴山縁起の歴史地理的背景(「新修日本絵巻物全集」3『信貴山縁起』)(角川書店) 一九五八年 八月

- 40 ○最近における地方史研究の現状 東京都（『地方史研究』三五号）  
一九五八年一〇月
- 41 ○後北条氏時代の江戸（『歴史評論』一〇〇号）  
一九五八年一二月
- 42 ○後北条時代の町―武蔵の場合―（『地方史研究』三六号）  
一九五八年一二月
- 43 ○山崎長者（『図説世界文化史大系』21『日本 II』）（角川書店）  
一九五九年一月
- 44 ○武蔵国多西郡船木田庄について（『日本史研究』四一号）  
一九五九年三月
- 45 ○「昭和時代」をお母さん方と読んで（『歴史評論』一〇六号）  
一九五九年六月
- 46 ○後北条氏時代の江戸（地方史研究協議会編『封建都市の諸問題』〔日本の町 II〕）（雄山閣出版）  
一九五九年六月
- 47 ○統一へのあゆみ（『日本の歴史』5『北朝と南朝』）（読売新聞社）  
一九五九年六月
- 48 ○南北朝・室町時代を教えるための問題点（『歴史地理教育』四三号）  
一九五九年六月
- 49 ○酒屋・土倉（『図説世界文化史大系』22『日本 III』）（角川書店）  
一九五九年六月
- 50 ○よろめく将軍家（『日本の歴史』6『群雄の争い』）（読売新聞社）  
一九五九年七月
- 51 △書評―樋口清之等著『郷土の歴史』関東篇―新しい企画に意義―（『日本読書新聞』）  
一九五九年八月
- 52 ○足利基氏（『日本人物史大系』第二卷『中世』）（朝倉書店）  
一九五九年九月
- 53 ○古代中世の産業（『日本産業史大系』4『関東地方編』）（東京大学出版会）  
一九五九年一二月
- 54 ○三浦家文書を読んで（大内町史談会『周防三浦史話』）  
一九五九年一二月
- 55 ○六斎市（『講座日本風俗史』別巻8『商業風俗』）（雄山閣出版）（のち、「六斎市の展開」と改題して、  
著書30に収録）  
一九六〇年一月
- 56 △書評―上田正昭・原田伴彦『部落の歴史』第一巻―戦後部落問題研究の集大成―（『週刊読書人』三三三  
三号）  
一九六〇年七月

- 57○室町幕府について(『日本歴史』一四七号) 一九六〇年 九月
- 58△八東日本と西日本 34▽道者と賤民(『日本読書新聞』一〇七四号) 一九六〇年一〇月
- 59△紹介―奥野高廣著『戦国大名』(『日本歴史』一五一号) 一九六一年 一月
- 60○戦国大名領下の産業発展とその条件(「日本産業史大系」1『総論篇』)(東京大学出版会) 一九六一年 一月
- 61△紹介―武藤致和編著『南路志』(『日本読書新聞』一〇九四号) 一九六一年 三月
- 62△地方史研究を推進した人々・菊地山哉(『地方史研究』五〇号) 一九六一年 四月
- 63△書評―佐々木銀弥著『中世の商業』―久しぶりの概説書―(『日本読書新聞』一一一一号) 一九六一年 七月
- 64△岩波文庫と生きる(『図書』一四五号) 一九六一年 九月
- 65△紹介―宮本常一著『新編 村里を行く』―昭和十年代の村々、老若男女を生々と描く―(『日本読書新聞』一一二〇号) 一九六一年 九月
- 66○吉田社の荘園的領知について(水戸市へ報告) 一九六二年 一月
- 67○武家文書(高橋碩一編『古文書入門』)(河出書房) 一九六二年 三月
- 68○国府台合戦の意義(『歴史散歩会々報』七号) 一九六二年 三月
- 69△書評―藤岡謙二郎著『日本歴史地理序説』―諸科学との協力の成果―(『日本読書新聞』一一四九号) 一九六二年 四月
- 70△紹介―東京都立大学学術研究会編『目黒区史』と、みすず村誌編纂委員会編『みすず、その自然と歴史』―広い視野に立つ郷土史とそれを読む住民のあり方―(『日本読書新聞』一一五〇号) 一九六二年 四月
- 71○村の富者と貧者(「世界美術全集」『日本』6『月報』) 一九六二年 四月
- 72○久我家領尾張国海東庄について(『地方史研究』五六・五七合併号) 一九六二年 六月
- 73○掠奪調査と掠奪研究(『塩業時報』一四卷七号) 一九六二年 七月

74△書評―宮本常一著『民衆の智慧を訪ねて』―親しくひびく村人の苦心―(『東京新聞』一九六三年三月

二七日夕刊)

一九六三年 三月

75○守護領国制の展開(『岩波講座日本歴史』7『中世3』)(岩波書店)

一九六三年 五月

76○武州鉢形城主北条氏邦(『練馬郷土史研究』50号)

一九六四年 一月

77○山城の国人たち(『月刊日本史』一五号)

一九六四年 九月

78○目代大石氏について(『府中市史史料集』4)

一九六四年 九月

79○江戸城代遠山氏について(『府中市史史料集』4)

一九六四年 九月

80○鎌倉初期の武蔵の国司(『府中市史史料集』5)

一九六四年 二月

81○相模国高座郡渋谷庄について(『史苑』二五卷三号)

一九六五年 三月

82○関東の群雄(『日本の合戦』3)(人物往来社)

一九六五年 七月

83△短評―書き変えられる地方史“お国自慢”から“真実の姿”へ(『サンケイ新聞』一九六五年七月二

四日夕刊)

一九六五年 七月

84○北条早雲(『人物・日本の歴史』6『戦国の群雄』)(読売新聞社)

一九六五年 八月

85○小田原平定(『日本の合戦』6)(人物往来社)

一九六五年 一〇月

86○鎌倉中期の武蔵国司(『府中市史史料集』9)

一九六五年 一二月

87○鎌倉後期の武蔵国司(『府中市史史料集』9)

一九六五年 一二月

88○関東のむかし(『日本の旅』9)(小学館)

一九六六年 八月

89○流浪する将軍(『歴史読本』一一卷九号)

一九六六年 九月

90○鎌倉時代の在庁官人(『府中市史史料集』12)

一九六六年 九月

- 91 ○南北朝時代の武蔵国司と守護（『府中市史料集』12）  
 1966年 九月
- 92 ○室町時代の武蔵国の守護（『府中市史料集』12）  
 1966年 九月
- 93 ○文化財はだれのものか（職員版『いたばし』9）  
 1967年 一月
- 94 ○鎌倉時代の武蔵国衙（『府中市史料集』14）  
 1967年 三月
- 95 ○曾我物語と武蔵府中（『府中市史料集』14）  
 1967年 三月
- 96 ○南北朝時代の武蔵守護（補考）（『府中市史料集』14）  
 1967年 三月
- 97 ○室町時代の武蔵守護（下）（『府中市史料集』14）  
 1967年 三月
- 98 ○東海道の旅（『日本文学の歴史』5『愛と無常の文芸』）（角川書店）  
 1967年 九月
- 99 △書評―鈴木良一著『織田信長』―国人士蒙の結集統制、信長成長過程のすぐれた研究書―（『図書新聞』九二八号）  
 1967年 九月
- 100 ○中世の村と町（『日本歴史シリーズ』8『室町幕府』）（世界文化社）  
 1967年 一〇月
- 101 ○戦国の群雄たち（『日本歴史シリーズ』9『戦国時代』）（世界文化社）  
 1967年 一二月
- 〔四〕 五十歳代のもの（一九六八年〔昭和四三〕より一九七七年〔昭和五二〕まで）
- 102 △練馬村夜話（『練馬郷土史研究会々報』七八号）  
 1968年 一二月
- 103 ○平野実著『庚申信仰』解説（角川書店、選書12）  
 1969年 一月
- 104 △入間路の旅覚書（『練馬郷土史研究会々報』八〇号）  
 1969年 三月
- 105 ○江ノ島岩本坊の中世文書について（『神奈川県史研究』四号）  
 1969年 五月
- 106 ○八王子城主北条氏照の文書（『歴史研究』一〇三号）  
 1969年 七月
- 107 ○岩付城主北条氏房の文書（『歴史研究』一〇四号）  
 1969年 八月

- 108 ○三崎城主北条氏規の文書(『歴史研究』一〇五号) 一九六九年 九月
- 109 ○軍制の変遷―戦国の軍制―(『歴史と地理』一六八号) 一九六九年 九月
- 110 ○大森周辺の武士と農民―大井文書などを中心として―(岩橋小弥太博士頌寿記念会編『日本史籍論集』下巻)(吉川弘文館) 一九六九年一〇月
- 111 ○下剋上の精神(『伝統と現代』二卷一〇号) 一九六九年一月
- 112 ○地方史研究の成果―とくに後北条氏の研究によせて―(『ジャポニカ百科事典』付録『ジャポニカ通信』一一号) 一九六九年一二月
- 113 ○乙千代丸は氏邦か氏政か(『練馬郷土史研究会々報』八七号) 一九七〇年 五月
- 114 ○明德・応永の乱(『日本と世界の歴史』11『14世紀』)(学習研究社) 一九七〇年 六月
- 115 ○半済(『日本と世界の歴史』11『14世紀』)(学習研究社) 一九七〇年 六月
- 116 ○足利義政(『日本と世界の歴史』12『15世紀』)(学習研究社) 一九七〇年 七月
- 117 ○日野富子(『日本と世界の歴史』12『15世紀』)(学習研究社) 一九七〇年 七月
- 118 ○江戸郷の誕生(『古事類苑月報』42)(吉川弘文館) 一九七〇年 九月
- 119 ○中世郷土における流通と交易―戦国期の武蔵国の場合―(『郷土史研究講座』3『中世郷土史研究法』)(朝倉書店)(のち、「武蔵国における流通と交易」と改題して、著書30に収録) 一九七〇年一〇月
- 120 ○藤沢の大鋸引(『日本歴史』二七〇号) 一九七〇年十一月
- 121 △書評―色川大吉編・多摩史研究会著『多摩の五千年』―市民たちの反逆の史書―現状破壊に対する悲しみと怒り―(『週刊読書人』八六五号) 一九七一年 三月
- 122 ○駿河戸倉城主・武蔵小机城主北条氏堯とその文書(『年報後北条氏研究』創刊号) 一九七一年 四月

- 123 ○玉繩落城前後ばなし―丹波堀内文書を中心として―(『藤沢市史研究』二号) 一九七一年 七月
- 124 ○統一への序曲(『文学の旅』6『伊豆・富士』)(千趣会) 一九七一年一月
- 125 △埼玉県立博物館開館にあたって(『練馬郷土史研究会々報』九六号) 一九七一年一月
- 126 △地方史研究のレファレンス―史料編纂所―(『図書館雑誌』六五卷一二号) 一九七一年二月
- 127 ○戦乱の武蔵野(『文学の旅』5『関東Ⅱ』)(千趣会) 一九七二年 八月
- 128 ○半済の展開(『日本の歴史』7『南北朝の動乱』)(研秀出版) 一九七二年 九月
- 129 ○太平記と梅松論(『日本の歴史』7『南北朝の動乱』)(研秀出版) 一九七二年 九月
- 130 △戦国英雄の百五十年(『文芸春秋』五〇巻九号) 一九七二年 九月
- 131 ○後北条氏の職人支配―とくに革作を中心として―(『練馬郷土史研究会々報』一〇〇号)(著書30に収録) 一九七二年一〇月
- 132 ○北条氏と伊達氏(『日本の歴史』9『戦国の世』)(研秀出版) 一九七二年一月
- 133 △歴史の跡―氷河時代から近代まで―(『都政人』三七巻一号) 一九七三年 一月
- 134 ○駿河「深沢城」攻防覚書(『国史学』九二号) 一九七四年 一月
- 135 ○時代概観―戦国から統一への時代(人物探訪「日本歴史」6『統一の覇者』)(暁教育図書) 一九七四年 七月
- 136 ○「山城国一揆」の回想(『歴史学研究 復刻版月報』6号) 一九七四年 八月
- 137 ○後北条氏と伊豆(『歴史手帖』二巻九号) 一九七四年 九月
- 138 ○鉄砲の伝来と関東(『神奈川県立博物館だより』七巻四号)(のち、著書30に収録) 一九七四年一月
- 139 ○鉄砲の伝来(人物探訪「日本歴史」5『戦国の武将』)(暁教育図書) 一九七五年 一月
- 140 △いくつかの思い出(『古島敏雄著作集』第五巻月報5)(東京大学出版会) 一九七五年 一月
- 141 ○大正末・昭和初年の百人町(『新宿区立図書館だより』五号) 一九七五年 二月

- 142 ○小田原北条氏略年表(『小田原編年録』第6冊)(名著出版) 一九七五年 二月
- 143 ○戦国期の江戸―後北条氏の江戸支配―(『中学社会』一七九号) 一九七五年 二月
- 144 ○最初の虎印判状(『地誌と歴史』四号) 一九七五年 三月
- 145 ○戦国大名と上洛の思想(『歴史と人物』四五号) 一九七五年 五月
- 146 ○黄梅院殿春林宗芳への回想―武田信玄の娘・北条氏政室―(『歴史手帖』三卷七号) 一九七五年 七月
- 147 ○早河殿(蔵春院殿天安理性)への回想(『史談小田原』) 一九七五年 七月
- 148 ○日蓮と本間重遠(『歴史手帖』三卷一〇号) 一九七五年一〇月
- 149 ○「謙信塩送り」の真偽(『歴史と人物』五一号) 一九七五年一二月
- 150 ○解説・小田原平定について(相田二郎著『小田原合戦』小田原文庫1)(名著出版) 一九七六年 二月
- 151 ○白石実正と夏山茂(『杉並郷土史会々報』一六号) 一九七六年 四月
- 152 ○室町時代の職人(豊田武・ジョンホール編『室町時代―その社会と文化―』(吉川弘文館) 一九七六年 九月
- 153 ○中国・朝鮮・南蛮の技術と軍事力(『岩波講座日本歴史』8『中世4』)(岩波書店) 一九七六年一〇月
- 154 ○北条幻庵文書について(郷土文化研究会『郷土文化』第一号) 一九七六年一二月
- 155 △大正生れの歴史研究者たち(禿山夜話)(『歴史手帖』五卷一号) 一九七七年 一月
- 156 △足利さんと上杉さん(禿山夜話)(『歴史手帖』五卷二号) 一九七七年 二月
- 157 △自分の中の歴史(禿山夜話)(『歴史手帖』五卷五号) 一九七七年 五月
- 158 △伊東律師の最後(『全訳吾妻鏡』五月報)(新人物往来社) 一九七七年 五月
- 159 ○江戸氏の発展と衰退(萩原龍夫編『江戸氏の研究』)(名著出版) 一九七七年 七月
- 160 △源久寺と現代の周防三浦氏(禿山夜話)(『歴史手帖』五卷八号) 一九七七年 八月

- 〔五〕 六十歳代のもの（一九七八年〔昭和五三〕より一九八七年〔昭和六二〕まで）
- 161 ○滝山城から八王子城へ（『多摩のあゆみ』一〇号）  
一九七八年 二月
- 162 ○北条氏忠の下野佐野支配（『駒沢史学』二五号）（のち、著書30に収録）  
一九七八年 三月
- 163 △長光徳和君の急死（禿山夜話）（『歴史手帖』六卷五号）  
一九七八年 五月
- 164 ○相田二郎著作集3 『古文書と郷土史研究』解題（『古文書と郷土史研究』）（名著出版）  
一九七八年 七月
- 165 ○（フロイス）「日本史」を大学テキストとして（『フロイス日本史6 豊後篇I』付録6）（中央公論社）一九七八年 八月
- 166 △紹介―勝田勝年校注『毛利合戦 雲陽軍記』（新人物往来社）  
一九七八年 一二月
- 167 ○道灌と早雲―戦国を開いた人の謎―（『日本史の謎と発見』8 『戦国の風雲』）（毎日新聞社）（のち、著書30に収録）  
一九七九年 三月
- 168 ○北条氏規の発給文書について（『関東中心 戦国史論集』）（名著出版）  
一九八〇年 六月
- 169 ○早雲の領国形成と民政（『歴史読本』二五卷一三号）（のち、「早雲の領国形成と民政」と改題、補訂して、著書30に収録）  
一九八〇年 一〇月
- 170 ○小田原北条氏と三浦半島（横須賀西部文化研究会『年輪』一四号）（のち、「三崎城と三浦半島」と改題、補訂して著書30に収録）  
一九八〇年 一〇月
- 171 ○相模塩業史の一史料（『戦国史研究』創刊号）（のち、「前川の塩場争議」と改題し、著書30に収録）  
一九八一年 二月
- 172 ○北条早雲の出自の謎を解く（『歴史と人物』一一六号）（のち、「早雲の出自再考」と改題、補訂して著書30に収録）  
一九八一年 三月
- 173 ○戦国職人事情（『歴史への招待』13）（日本放送出版協会）  
一九八一年 三月
- 174 ○戦国大名の領国経営法（『歴史と人物』一一九号）（のち、「後北条氏の領国経営法」と改題、補訂し

て、著書30に収録)

- 175 ○戦国の城改めと忍者(『歴史と人物』一二四号) 一九八一年六月
- 176 ○中世の人びと(吉田公彦編『東日本と西日本』)(日本エディタースクール出版部) 一九八一年一〇月
- 177 ○新見荘の民衆(『ジウム中世の瀬戸内』(下)(山陽新聞社)) 一九八二年一月
- 178 ○権現山に喫した早雲の苦杯(『歴史と人物』一三二号) 一九八二年四月
- 179 ○戦国女性の地位と生活(『歴史と人物』一三四号) 一九八二年七月
- 180 ○雲南省龍陵のとどろき(『歴史と人物』一三七号)(西田通康氏と共同執筆) 一九八二年九月
- 181 ○小田原北条氏との友誼と婚姻(『歴史と人物』一四〇号) 一九八二年一二月
- 182 ○「七十一番職人歌合」の職人衆(『歴史と人物』一五一号) 一九八三年九月
- 183 ○下野壬生氏の発給文書(『駒沢史学』三一号) 一九八四年三月
- 184 ○戦国合戦勝ち残りの前提(『歴史と人物』一六四号) 一九八四年九月
- 185 △職人の姓氏(『中央公論』第一〇〇年第八号) 一九八五年八月
- 186 ○鎌倉幕府の武蔵支配と多摩川
- 187 ○武蔵野合戦と多摩川
- 188 ○太田氏・上杉氏と多摩川
- 189 ○後北条氏の多摩川周辺支配
- 190 ○後北条氏の北武蔵攻略について(『八潮市史研究』六号) 一九八七年四月
- 〔六〕 七十歳代のもの
- 191 ○足立の土豪たち(『足立区立郷土博物館紀要』五号) 一九八八年三月
- 多摩川誌編纂委員会編『多摩川誌』第6編『社会生活史』第二章 中世  
河川環境管理財団刊